

生活科学部に管理栄養士養成課程が発足

食物栄養学科教授 青山 洋右

生活科学部の食物栄養学科は文部科学大臣及び厚生労働大臣から管理栄養士養成課程として認定され、東京都知事から養成施設としての指定を受けて、平成十六年度入学生から卒業時には管理栄養士の国家試験を受験する資格が与えられることになりました。

平成十二年四月の栄養士法改正に基づいたもので、栄養を通じて国民の健康問題を見直すために、人間栄養学的な教育と研究に重点を置いて医学的な知識、カウンセリング、行政などに関連した教育を強化したカリキュラムが新たに加わりました。本学の教員が中心となつて「スタンダード栄養・食物シリーズ」という全十五巻十七冊からなる教科書を企画し、既に十冊を刊行したのもこの新しいカリキュラムに対応したものです。

食物科学講座として家政学部時代からこれまでに培ってきた基礎科学の研究と教育を減らすことなく、これからは大学院と一貫した教育を行つてわが国の管理栄養士養成施設における教育研究のリーダーを育てることを目指しています。学生定員は三六名ですが、この四月には一前期として三七名が入学しました。彼女達が一人前の指導者として巣立つまでには学部と大学院を合わせたと十年近くかかりますが、それを育てる教員スタッフと教科書は着々と整いつつあります。

教育の第三の柱である施設は、平成十五年度に行われた生活科学部本館の改修工事に際して全面的に施工され、ハサップ対応の大量調理実習施設を始め、基準に適合した環境が整いました。大学の独法化と期を一にして新しい課程がスタートできたこと、感慨深いものがあります。

梨花女子大学へ留学して

文教育学部 人間社会科学科
心理学コース四年 阪田 裕里子

私は、二〇〇三年度、本学からの交換留学生として韓国の梨花女子大学へ留学しました。梨花女子大学は、韓国を代表する歴史のある名門女子大です。学生数も多く、自然豊かで、古い欧米式の煉瓦造りの建物とともに現代的な建物が並ぶキャンパスはいつも多くの女子学生達が行き交っています。私たち、交換留学生の普段の日課はというと、午前は留学生のための語学（韓国語）の授業を受け、午後は英語による講義、または一般の授業を選択し、梨大の学生とともに受けるというもので、積極的な留学生や勤勉な梨大生の雰囲気の中で学ぶことができました。留学生が主催のフェスティバル等、年間を通していくつかの行事にも参加しました。この留学は、異文化での生活体験、韓国語の習得ばかりでなく、普段の生活では交流が難しい人々と出会えたという点において、自分に大きなプラスとなったと思います。韓国の学生達、教師の方々はもちろん、様々な文化から来た留学生の仲間たちと出会い、一緒に活動したことは、国際的な視野を広げるとともに、日本について、自分について考える機会を与えてくれました。



▲キャンパス内の教会



▲留学生主催のフェスティバル

お茶の水女子大学 貴重資料紹介

文教育学部教授 秋山 光文



▲矢澤弦月「昭憲皇太后像」

本作品は、昭和七年に完成した徽音堂のために、昭和九年に大学が依頼し完成したもので、本学の創設に深く関与した昭憲皇太后の肖像を描いたもの。作者の矢澤弦月（本名貞則）は大正十年から本学の美術担当教官を務めた日本画家で、信州諏訪に生まれ、東京美術学校日本画科を卒業後、長く文展等で活躍した。この絵の原画となつているのは、お雇い外国人エドアルド・キヨッソーネが明治二十一年一月に描いたコンテ画で、実際には丸木利陽がこれを写真版に複写したいわゆる「御真影」が用いられたと思われる。原画にあった背景をすべて金地とし皇太后のみを描出しているが、モノクローム（白黒）写真を元に描いているためにドレスとケープの繋がりに不自然なところがある。本作品と対に描かれた「明治天皇像」（松岡映丘筆）と共に、日本画の技法で描かれた天皇・皇后の肖像画は極めて珍しく貴重である。戦前まで徽音堂の舞台両脇に懸けられ、儀式の時のみ覆いがはずされたという。